

1 本時の位置（全 9 時間扱い中の第 5 時間）

前時：形が等しい図形の性質を使って、三角形の拡大図，縮図の書き方を考えて書く。

次時：1 つの点を中心にして，図形を 2 倍に拡大，1/2 に縮小する。

2 本時の主眼

三角形の合同条件に気付いている子どもたちが，四角形の 2 倍の拡大図の書き方を考える場面で，四角形を 2 つの三角形に分けたり，三角形の合同条件を利用することを通して，角度を使わない四角形の拡大図，縮図の書き方がわかる。

3 指導上の留意点

- ・子どもが模範解答に影響されず思考できるように，教師が教科書に代わる教材を用意する。
- ・プロジェクターのトラブル時は，黒板を使用しつつ，子どもたちの考え方を紹介する。

4 本時の展開

段落	学習活動	予想される児童の反応	時間	指導・援助と評価
導入	1 四角形の拡大図の書き方を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ BC を書いて，C は直角だから CD は書ける。 ・ 角 B が分かれば書ける。 	5	○子どもが今度は四角形の色々な書き方に興味をもつことができるように，教師が図形を提示する。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">四角形の拡大図を書くにはどんなやり方があるのかな？</div> 2 どうすれば 2 倍の拡大図が書けそうか，追究の見通しを話し合	<ul style="list-style-type: none"> ・ 角 B わかんなくても書けるよ。 ・ 向きを変えて，CD が下に来るようにすると，分かりやすい。 	5	○図形に対して色々な見方ができるように，どんな書き方が予想できそうか話し合う場を設ける。
展開	<div style="border: 3px double black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">二つの三角形に分けて考えてみればよさそうだ。</div> 3 自分のやり方で確かめて，まわりの人と共有する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ BD で分けてみる。 ・ 三角形と同じように考えればいいのか。 ・ 逆さまにした方がわかりやすいかも。 ・ そうすると三角形 DBC はすぐに書けるよね。 ・ AC で分けたら？ ・ 角 C の直角が使えなくなっちゃうからできない。 	15	「どうすれば書けそうかな？」 ○一つの考え方ではなく，色んな角度から図形をとらえることに気付けるように，共感的な言葉がけをしたり，全体に伝えたりする。
	4 2 倍の拡大図が書けたところで，次は 1/2 の四角形の縮図を書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・ どこで分けようかな。 ・ BD で分けると，コンパスを使えば書ける。 ・ 角度はからなくていいじゃん。 	15	○三角形の性質を上手く利用出来ていない子が再び，問題へ取り組み続けることができるように，四角形の中に三角形を見出している子どもの考え方を取り上げる。 ○考え方の違いに気付いたり，互いの考え方について考えたりすることができるように，子どもの考え方をスクリーンに映して全体で共有する。
終末	5 本時の追究を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 色々な考え方があった。 ・ コンパスを使えば分度器を使う必要がないことがわかった。 ・ 三角形の拡大図よりも四角形の方が難しかった。 	5	○考え方の広がりをもたらすことができるように，子供たちが自分の考え方を説明したり，見せ合ったりする。 評価：四角形を 2 つの三角形に分けたり，三角形の合同条件を利用することを通して，角度を使わない四角形の拡大図，縮図の書き方がわかっている。 ○考え方の違いをまとめたり，授業内容を理解することができるように，ふりかえりを記入する時間を設ける。